

■島成園 20歳で文展に入選し、閨秀美人画の“三都三園”の一人として、一世を風靡するも、結婚で退場し忘れられた。
しませいえん
大本教・・・1892＝ 大阪府堺市熊野町で、島栄吉・千賀の長女に生まれる。戸籍上は母の実家諏訪家の養女で本名諏訪成榮。

日清戦争始・1894＝ 2歳： 父は襖などに絵を描く画工、7歳上の兄の市次郎も引札や団扇などに絵を描く画工を生業とするかたわら、浅田一舟に師事し、御風(または一翠)と号して日本画家としても活動する。

幼時は、遊廓街のなかにある母の実家の茶屋で頻繁に日常を過ごすなど、

田中正造直訴1901＝ 9歳： 堺市の宿院尋常小学校を経て、

日露戦争始・1904＝12歳： 堺女子高等小学校を卒業。
日露戦争終・1905＝13歳： 一家で大阪市南区鍛冶屋町に転居、ここもまた大阪の“ミナミ”に近く、花柳界の習俗に親しんで育ち、この間、父や兄の仕事に興味を示し、見よう見まねで絵を独習し、{大阪絵画春秋展}に小野小町を描いた絵を出品、いくつかの図案競技会に作品を出品したのち、

韓国併合・・・1910＝18歳： 異画会展に「見真似」が入選したのに続いて、*文部省美術展覧会(文展)で、「宗右エ門町の夕」が特選となり、**弱冠20歳で中央画壇へのデビュー**。北野恒富、野田九浦に師事するようになり、「祭りのよそおい」が文展入選、女性画家の興隆により、文展への出品・入選が多くなり、女性画家に限った{閨秀画会}が開催され、北野恒富は、女性画家育成を目的に画塾{白耀社}を開く。

大正政変・・・1913＝21歳： 第1回が開催された大阪美術展覧会(大展)にも、兄御風の「村のわらべ」とともに、*「稽古のひま」と、文展入選が続き、三越絵画展覧会では、横山大観、竹内栖鳳、北野恒富ら著名画家とともに展示されるに至り、大阪からの若い女性画家の出現は画期的なこととされ、17歳上だった京都の上村松園、6歳上だった東京の池田薫園とともに“三都三園”と並び称され、皇族を含む各方面から多くの制作依頼が寄せられ、入門志望の若い女性が多数自宅を訪れる事態になり、門弟だけでなく、以後の女性画家登場に大きな役割を果たす。

第一次大戦始1914＝22歳： 親交する同年代の女性日本画家と{女四人の会}を結成し、大阪での第一回展で、4人が、井原西鶴の「好色一代女」に取材した諸作を出品して話題を呼ぶも、識者には挑発的行動と受け止められ、有名人との恋愛ゴシップも書き立てられるなどした上、この年の文展は、美人画重視への反動から、関西出身の女性画家のほとんどが落選したのと並んで、大作「燈籠流し」を出品するも落選、鍋木清方から惜しまれた。

21ヶ条要求・1915＝23歳： {閨秀画家作品展観}など、女性画家だけの展覧会も開催されるようになる。池田薫園が、盛名のなか夭折。文展で、「唄なかば」が兄の「かげろふ」とともに入選し、兄と共同で朝日新聞の連載小説隻松園作「年末」の挿絵を担当。以後、数年間にわたり、朝日新聞の連載小説の挿絵を多数担当。原画作者のひとりとして、木版画集「新浮世絵美人合」に掲載された「湯あがり」が絶賛され、以降、雑誌の表紙絵、カレンダーのイラストなども多数手がけるようになる。この年の「おんな(旧題：黒髪の誇り)」

民本主義・・・1916＝24歳： 北野恒富らが発足させた{大阪茶話会}の第1回試作展に出品した「無題」、

ロシア革命・1917＝25歳： 帝国美術院展覧会(帝展)が始まる。

本格政党内閣1918＝26歳： 木谷千種が女性画家育成目的の画塾{八千草会}を開く。*帝展に入選した代表作、母がモデルの老齡の遊女「伽羅の薫」の三点は、女性の本質を描いて賞賛される一方、下品な“退廃画家”とけなされるなか、

べルシエ条約・1919＝27歳： 銀行員森本豊次郎と、本人の合意なく、結婚生活に入らされ、生活環境が大きく変化、

大暴落・・・1920＝28歳： 柳原白蓮の詩に、原画を描いた木版画を組み合わせた「新錦絵帖 娘風俗十二ヶ月 処女の頃」刊行、

原敬首相暗殺1921＝29歳： 柳原白蓮の詩に、原画を描いた木版画を組み合わせた「新錦絵帖 娘風俗十二ヶ月 処女の頃」刊行、

水平社結成・1922＝30歳： 結婚後初となる個展で発表した諸作は、これまでにない酷評を浴び、

関東大震災・1923＝31歳： 「爪びき」、共作による新版画「新浮世絵美人合 七月 湯あがり」を発表。夫が上海に転勤し、その後数年間

護憲三派圧勝1924＝32歳： 大阪を往復しながら、中国の風俗に取材した異色作をものしたりするが、

、同地と大 豊次郎と正式に入籍すると、

円本時代始・1926＝34歳： 帝展に入選した「囃子」を最後に展覧会出品は途絶える。

金融恐慌・・・1927＝35歳： 以降は、夫の度重なる転勤に同行して小樽、中国・大連や芝罘、横浜、松本、岡谷と転居を繰り返し、大阪から離れたことによる創作意欲の減退、体調不良などで、作品はほとんど生み出されなくなる。

共産党事件・1928＝36歳： この年刊行された鍋木清方編の「現代作家美人画集」には、「爪びき」など三点収録。

満州事変・・・1931＝39歳： 代表作「伽羅の薫」を、この年描いた「朱羅宇」とともに、大阪市立美術館に寄贈。

帝人疑獄事件1934＝42歳： 上村松園が帝国芸術院会員となる。

日中戦争始・1937＝45歳： 敗戦となり、

日米開戦・1941＝49歳： 夫の退職に伴って、大阪に戻ると、

敗戦・・・1945＝53歳： 前年に女性として初めての文化勲章を受章した上村松園が死去。

新憲法公布・1946＝54歳： 個展を開催し始め、

三大事件・・・1949＝57歳： 独立回復・・・1951＝59歳： 55年体制始・1955＝63歳： 国連加盟・・・1956＝64歳： この年まで毎年開催し、この間、実父の死により内弟子として入門した岡本成薫とは気が合い、森本家の家事一切を受け持って貰ったほか、数度にわたる転居にも同行、家族同然に生活を共にする関係となって、

安保闘争・・・1960＝68歳： {大阪女人社展}に参加、以後は、門弟岡本成薫との二人展を

東京リビック 1964＝72歳：

震ヶ関ビル・1968＝76歳： 兄が死去。
全共闘・・・1969＝77歳： この年まで毎年開催したが、
大阪万博・・・1970＝78歳： 宝塚に転居した直後に、脳梗塞で没した。
岡本成薫は、成園の死後、正式に森本家の養女に迎えられて、森本美津子となり、17年後の森本豊次郎の死去後、成園の遺作85点を大阪市立美術館に寄贈した。